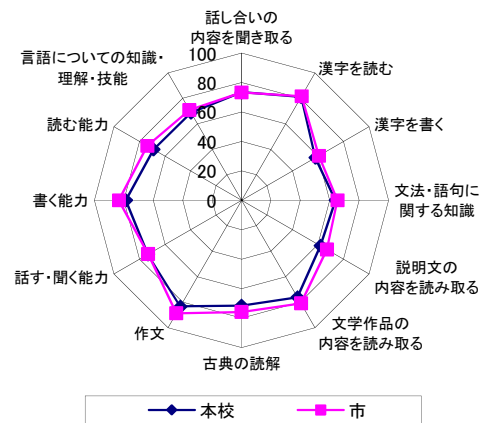


宇都宮市立陽南中学校 第2学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	73.4	73.3
	漢字を読む	81.0	81.5
	漢字を書く	58.0	60.6
	文法・語句に関する知識	63.9	65.2
	説明文の内容を読み取る	62.0	66.9
	文学作品の内容を読み取る	76.1	80.9
	古典の読解	71.6	76.0
	作文	83.3	88.6
	話す・聞く能力	73.4	73.3
観点別	書く能力	78.6	83.4
	読む能力	69.0	73.9
	言語についての知識・理解・技能	68.7	70.9



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	本校の正答率は、市の平均を0.1ポイント上回っており、ほぼ同等の正答率である。話の要旨を聞き取る力は平均レベルである。	録音教材による聞き取りテストを今後も継続させ、話の要旨を的確に聞き取り、その内容を説明する練習を続けていきたい。
漢字	漢字の読みの正答率は、市の平均を0.5ポイント下回っている。漢字の書きの正答率は、市の平均を2.6ポイント下回っており、特に漢字の書きを苦手とする生徒が多い。	今後も学年配当の漢字を継続的に学習するプリントを作成し、定期的に確認テストを実施し定着を図りたい。読みについては、授業の中で、生徒への意識付けを図りながら、繰り返し指導していきたい。
文法・語句に関する知識	本校の正答率は、市の平均を1.3ポイント下回っている。特に用言の活用の種類や活用形の理解が不十分な生徒が多い。	1年生の文法事項の理解が曖昧なために、2年生での文法の学習につながらない生徒が多い。2年生で文法を学習する際に、基礎的な事項も復習するよう授業を計画していきたい。
説明文の内容を読み取る	本校の正答率は、市の平均より4.9ポイント下回っている。文脈に即して、内容や要旨を捉えることを苦手とする生徒が多い。	説明的な文章の読解の授業では、内容を把握しやすい作業用紙を用意し、指示語や接続語の働きに注意して、文章の構成をや筆者の考えを読み取れるよう指導していきたい。
文学作品の内容を読み取る	本校の正答率は、市の平均を4.8ポイント下回っている。登場人物の言動や心情の読み取りが苦手な生徒が多い。	授業や朝の読書、学校図書館での指導などを通して、さまざまな文学作品に触れさせ、登場人物の行動や会話などから、場面ごとの心情の変化を的確に読み取る力をつけさせたい。
古典の読解	本校の正答率は、市の平均を4.4ポイント下回っている。仮名遣いの違いから古典作品に苦手意識を持ち、内容を的確に捉えることを苦手とする生徒が多い。	資料集などを使用しながら、作品が記された当時の生活や思想などを説明し、古典作品に興味関心を持たせるようにする。また、語句の意味だけにとらわれすぎないように、映像教材等も用いながら、内容が理解できるように授業を組み立てるようにする。
作文	本校の正答率は、市の平均を5.3ポイント下回っている。示された構成を踏まえたうえで、自分の考えを明確に書くことが苦手な生徒が多い。	自分の立場をはっきりさせて文章を書く練習を多く取り入れ、書くことへの苦手意識を取り除いていきたい。また原稿用紙の使い方も改めて確認し、示された構成に応じて書く練習も引き続き取り組ませていきたい。